不高学友会だより

発行所
埼玉県立不動岡高等学校
学友会
加須市不動岡1−7−45
電話 0480（61）0140

不動岡 また新たなステージへ
「進学重視型単位制高校」へ移行

創立百二十三年目を迎えた二〇〇八年（平成二十年）の今年。不動岡はまた新たなステージに踏み込むことになりました。それは、これまでの「学年制」タイプの高校から「単位制」タイプの高校へ移行したことです。

昨年の「学友会だより」で御報告したとおり、不動岡は二〇〇七年度（平成十九年度）から六十五分授業・半期単位認定制（セメスター制）を導入しました。すでに御理解していただいていますように、セメスター制ではこれまで一年間をかけて科目の履修を認定していたのを、半期で認定していくというものです。そして高校で学ぶべき教科は三年生の前期までに修了して、後期はそれぞれの進路に応じた学習を保証しようという制度です。そこでこの制度では学年という枠にとらわれずに、三年間を六学期として考えることになります。そうなりますと、学年制タイプよりも、教科の履修・修得を中心に考える単位制のほうが、よりスムーズにこの制度を活かせることになります。また、特に三年生後期では、生徒の志望大学に合わせた学習が始まります。そこではセンター試験対策や国公立大学の二次試験、難関私大に向けた対策の多くの講座が必要になります。そのためには、多くの教員が必要になりますが、単位制になることによって教員の定数が増加して、より生徒の要望を生かすことができるようになります。セメスター制、そしてそれをより推進する進学重視型の単位制というシステムを今後うまく活用していくことによって、不動岡の進学実績の向上が図られると確信しています。

それがまた、諸先輩方のそしてこの地域の進学校としての期待に応えることになると思っています。

不動岡高校が誕生した一八八六年（明治十九年）は、帝国大学令、そして学校令（小学校令等）が公布された年です。日本はまだ不平等条約下にあり、その改正のために翌年には鹿鳴館で盛んに舞踏会が開かれています。欧米列強国と対等な関係に立ち、真の近代化を図るためには教育の力が必要だったのでしょう。本校創立者たちはその時代を読み、そしてその先まで見通して私財をはたいて学校づくりをしました。その精神が今も脈々と受け継がれている。それが本校伝統子根本にある。だから常に新しいことに挑戦していけるのだと考えています。

【セメスター委員会委員長　長島　巌（八十二回卒）】

安全と安心

会長　立岡勝之

オリンピックやパラリンピックに一喜一憂した夏が終わりました。

最近の社会は、諸物価の高騰や食品に関する事件・事故など、生活に対する不安が高まっています。生活に対する「安全」と「安心」が脅かされつつあります。そもそも、安全は客観的なものであり、安心は主観的なものです。安心は、客観的に安全な状況、安全に対する要求水準、事件や危険性の報道などの情報量、危険認識に対する感度・感性によって左右されるものです。安全な状況を作り、その情報を提供しても、人々の安全に対する要求水準や感性がそれ以上に高まれば、安心感を与えることはできません。安心ということについては、他者がそれを実現するとか、高めるとか操作することが極めて困難なものです。

行政や企業などにできることは、まず、客観的に安全な状況を作ることなど、製造・流通の責任を果たすこと、その安全性についての情報提供を十分にするなどの説明

責任を果たして、信頼を得ることではないでしょうか。その根底には、それに携わる人のモラルなど人間性・人間力に関わることが多いと思います。利益や評価を重視するあまり、客観的な状況ばかりでなく、人々の感性など主観的なものまで操作できる、ごまかすことができると誤解してしまう愚行が、社会に横行してはなりません。

これからの社会を担う若者たちが、人権や個性、感性など一人ひとりの人生を尊重しながら、利益と評価を追及できる、成熟した社会を作り上げてくれることを願っています。

着任にあたって

校長　舘　眞一

本年四月に長澤校長の後任として赴任してまいりました校長の舘と申します。私は内示の翌日に学校を訪れ、最新設備を備えた新校舎、「歩一歩」の像などの数々の彫刻、グランド三面を有する広大な敷地を目の当たりにし、まず驚嘆いたしました。創立一二三年の伝統と文化が脈々と受け継がれている本校に赴任できたことを大変光栄に思うとともに、私に課せられた責務の重さを実感しました。

本校は、新不動岡プランをもとに、「明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成」を目指して、平成十九年度から六十五分授業、セメスター制（半期単位認定制）、平成二十年度から進学重視型単位制へと移行し、全国でも数少ない教育システムを持つ学校となりました。私は、まず、この新たな教育システムを定着させ、「大学への合格力」の向上を図ることが課せられた責務であると考えています。今年度は、授業改善、生徒面談の充実、高大連携の拡大、土曜活用などにより、「確かな学力と知性」の育成に努めています。

さらに、学習のみに偏ることなく、部活動、学校行事等諸活動に対しても全力で取り組む姿勢を育むことも欠くことはできません。「質実剛健」の不動岡精神のもと、このような諸活動、地域貢献活動、国際交流活動などを通して、心身を鍛え、グローバルな視点を持ち、国際社会に貢献できる人材の育成を目指していきたいと考えています。

学友会の皆様には、本校の教育方針にご理解をいただくとともに、物心両面でのご支援・ご協力をお願いして、挨拶とさせていただきます。

創立100周年記念事業 高沢育英会活動報告

財団法人　高沢育英会理事長　小野田義雄

本育英会が設立されるまでの経緯については、昭和58年2月11日に開催された学友会総会において「創立100周年に因み有為な生徒の奨学・育英を図る」ための制度設立の要望が出されたことにより始まりました。

この趣旨に賛同された久喜市在住の実業家　高沢三次郎氏から5千万円の寄付申し出があり、この寄付金を基金にして昭和60年2月1日財団法人高沢育英会が設立されました。

財団法人高沢育英会の目的は、北埼玉地域の優れた青少年に対し奨学援助を行いもって、社会有用の人材を育成するもので、昭和60年度から現在まで同域内の公立中学・高校に在学する者及び同域内の公立高校を卒業した大学生に奨学金を給付する事業を展開してまいりました。

昭和60年度の事業開始から平成20年度までの23年間で、給付者総数は延べ401名、給付総額は44，240，000円にのぼっております。本育英会の果たした役割は数字の示すとおり大きなものであると自負しております。

学友会総会の要望で設立された本育英会の活動状況を、紙面の一部をお借りして学友会会員の皆様にご報告すると共に寄付者の高沢三次郎氏に厚く感謝いたします。

人事異動

転入

職名	氏名	教科	前任校
校長	舘　眞一	英語	和光高校
主幹	野口　真司	理科	寄居高校
教諭	飯島　清志	地歴	騎西高校
教諭	西岡　浩三	地歴	羽生実業高校
教諭	池田　浩二	数学	幸手高校
教諭	森　響一	理科	新採用
教諭	利根川　哲	英語	松山高校
教諭	塩原　壮	英語	羽生高校
教諭	岸　礼子	国語	春日部女子高校（臨）
教諭	小杉友季子	数学	越谷北高校（臨）
教諭	佐藤　友孝	理科	川口青陵高・吉川高（非）
教諭	小澤　照恵	音楽	熊谷市立女子高校（臨）
養護教諭	小俣絵里奈		新採用
主任	中村　砂織		不動岡誠和高校
主事	篠塚　和也		岩槻北陵高校
主任司書	大木あさこ		浦和図書館

退職、転出等

職名	氏名	教科	転出・採用先
校長	長澤　智則	理科	退職
教諭	柴崎　道子	国語	桶川高校
教諭	間庭　茂	地歴	進修館高校
教諭	滝沢　紀正	理科	幸手高校
教諭	吉田　典子	音楽	寄居城北高校
教諭	山口　友司	英語	栗橋高校
教諭	白石　正夫	英語	杉戸農業高校
教諭	齋藤　友香	家庭	岩槻北陵高校
教諭（臨）	猪俣　京子	理科	越谷東高校
教諭（臨）	安井　修	数学	上尾南高校
養護教諭	村田　有美		深谷第一高校
非常勤講師	森田　純子	国語	
非常勤講師	伊藤　信博	理科	
非常勤講師	桑原　大輔	保健体育	蓮田高校（教諭）
主任	大熊　豊		東松山養護学校（担当課長）
主事（臨）	大久保美紀江		久喜工業高校
司書（臨）	海藤　由美		伊奈学園総合高校

平成20年度　慶祝者名一覧

（敬称略）

58　浅井　博　瑞宝小綬章
62　羽鳥　藤雄　旭日双光章
65　清水　延浩　旭日小綬章
67　古峰　孝　瑞宝双光章
67　卯木　郁朗　瑞宝双光章
68　荒川　誠　瑞宝小綬章
81　中山　進　久喜市立江面第二小学校長
81　神田　徳雄　大利根町立豊野小学校長
83　松岡　進　埼玉県都市整備部長
83　石塚　孝義　県立庄和高校長
83　荻山　芳朗　行田太田中学校長
85　坪井　文夫　幸手東中学校長
86　五ヶ谷公一　久喜南中学校長
86　角田　守　春日部市立幸松小学校長
87　小谷野富雄　川口芝園中学校長
88　関根　均　県立杉戸高校長
88　松永　茂男　加須平成中学校長
10　中山　英男　瑞宝単光章

二〇〇八年度入試の結果

今年度のセンター試験出願者数は、三五五名であり、約九八%の出願率であった。本校では、センター試験における各教科・科目の平均得点率が七〇%を超えることを目標にしているが、超えた教科科目は、数学ⅠA・日本史Bの二科目であった。全国的に五教科七科目の文系や六教科七科目の理系の総合型平均点が伸びている状況のなかで、本校生が受験に必要な科目で七〇%以上の得点をとることをめざしてほしい。

平成十九年度の卒業生の進路状況は、四年制大学への進学者は二八四名、短期大学へ一名、専門学校へ九名、就職した生徒は四名（防衛大一名を含む）、来春の進学にむけて予備校等で準備する生徒は五八名、海外へ留学する等の生徒は四名であった。

国立大学への進学では、首都圏や関東圏を中心にして五九名が合格した。また公立大学では、埼玉県立大をはじめ九名が合格した。この結果は、本校生の志望大学におけるセンター試験の合格得点が、合格ラインまで伸びなかったことや志望大学が首都圏や関東圏に集中していること、および既卒生の国公立大学への受験件数が少ないことが原因と思われる。

私立大学には、延べ七九〇名の生徒が合格し、二八六名（卒を含む）が進学した。この結果から多くの生徒が首都圏の難関私立大学や知名度の高い大学を目指して挑戦したことなどが推察される。

現役生二八四名の学部別進学者数では、工学系五一名、人文教養系四八名、法学政治社会系三三名、経済系二九名、教育系二七名、国際学系二二名、理学系二一名、看護医療保健系一九名などがあげられる。

今年度の特徴では、受験生のセンター試験の総合型平均点が上昇したために、受験生の積極的な出願が目立った。また、難関国立大や首都圏の知名度の高い大学に志願者が集中したために、本校生も第一志望の大学を目指して来春の入試の準備をする生徒もいる状況である。

文責　八〇回卒
進路指導部主任　藤田　竹一

現役合格率　89.9%　　現役進学率　78.8%

過去３年間の合格者（延べ人数）

大学名		平成18年度	平成19年度	平成20年度
国公立大学	弘前大	1		1
	東北大	2		
	茨城大		2	1
	筑波大	9	5	6
	宇都宮大	7	1	8
	群馬大	4	5	1
	埼玉大	22	30	26
	千葉大	5	5	1
	お茶の水女子大		2	
	電気通信大		1	
	東京大	1		1
	東京外大	4		6
	東京学芸大	2	5	1
	東京農工大	3	1	2
	一橋大	1	1	1
	横浜国立大	1	3	
	新潟大	1	2	3
	信州大	1		1
	札幌医大	1		
	高崎経大	4	3	1
	埼玉県立大	6	7	8
	首都大東京	1	5	
	横浜市立大	3	1	
	その他	8	5	0
	国公立合計	**87**	**84**	**68**

大学名		平成18年度	平成19年度	平成20年度
私立大学	獨協大	39	47	46
	文教大	35	38	34
	青山学院大	11	15	11
	学習院大	12	14	16
	慶応大	5	2	4
	国際基督教大	1	2	2
	芝浦工大	31	19	19
	上智大	8	11	8
	成城大	14	11	22
	中央大	24	20	31
	津田塾大	6	1	2
	東京薬大	1	2	6
	東京理大	26	20	29
	東洋大	84	80	64
	日本大	50	56	53
	日本女子大	18	15	5
	法政大	53	50	38
	明治大	49	43	32
	明治薬大	5	5	14
	立教大	52	46	50
	早稲田大	22	14	13
	立命館大	1	3	3
	その他	330	279	288
	私立大合計	**877**	**793**	**790**

訃報

斉藤　哲夫　様　　旧職員

学友の集いにご参加ください

恒例の学友の集いを左記のとおり開催いたします。新しく生まれ変わった母校を、ご自身の目でご覧頂きつつ、旧交を暖めて頂ければ幸いです。お誘い合わせのうえぜひご参加ください。

日時　平成二十年十一月九日(日)
午前一〇時より

会場　埼玉県立不動岡高等学校
不動岡ホール

総会議事
①平成19年度会務報告
②平成19年度会計報告
③慶祝者表彰
④その他

懇親会　不動岡百周年記念会館にて

懇親会費　三、〇〇〇円
（当日受付でいただきます）

お問合わせは
☎〇四八〇―六一―〇一四〇
まで

現在の不動岡高校

豪州・中国への海外研修

本校は、オーストラリアと中国に姉妹校があり、夏季休業中に、それぞれ訪問しました。

オーストラリア研修は、七月二十九日から八月十一日までの十四日間、クイーンズランド州にあるキンガロイ高校を訪問。校長が現地で、今年度から四年間の姉妹校継続の調印を行いました。生徒たちは、現地の生徒と一緒に授業を受けたり、文化・習慣の異なる国での生活を体験し、英語力を向上させました。

また、中国研修は、八月十五日から二十二日までの八日間、内モンゴル自治区にあるフフホト第二中学を訪問。ホームステイや大草原でのパオの宿泊体験では中国大陸を肌で感じました。

いずれの研修でも国境を越えて学ぶ貴重な体験をした生徒たちは大きく成長したようです。

全国に羽ばたく不高生

○英語弁論大会全国優勝！

外国語科の田村寧子は、さいたま市で開催された「高校生英語弁論大会」で全国第一位にあたる外務大臣賞を見事受賞しました。

○独語スピーチコンテスト出場！

外国語科の今給黎友里・昆和沙・小山真由は、獨協大学主催のドイツ語スピーチコンテストに出場。昆・小山は「審査員特別賞」を受賞しました。

土曜補習開始

八月三十日から土曜補習が始まり、五教科九講座が開講され、三年生のべ二三〇名が出席しました。「確かな合格力」を身に付け、来春の栄冠を勝ち取ることを願っています。

埼玉インターハイに出場して

「限界を超え　飛び立つ君よ　永遠の風になれ」をスローガンに地元埼玉でインターハイが開催されました。陸上競技部は6月に関東大会（東京）で5種目8名が出場し400M、棒高跳、4×400MRで見事全国大会の切符を手にすることができました。特に陸上は個人種目が主と思われがちの中、今年も昨年に引き続きチームプレーとしてのリレーで全国出場を果たせたのは大きな成果であった。結果は400M（3年岡安）は残念ながら予選落ちであったが、棒高跳（1年川島）は4m70をクリアーし決勝進出を果たした。翌日の決勝は気負いすぎで従来の力を発揮できずに本人は大変悔しがっていた。まだ1年なので今後が楽しみである。4×400MR（オーダーは2年成田、3年蛭間、3年岡安、3年白鳥）は予選をチーム新記録で突破し、準決勝でも全員が最大限のすばらしい力走をし、わずか0・3秒及ばず決勝進出を逃すものの全国9位の大健闘であった。記録は3分15秒49でインターハイに出場した関東高校ではトップであり大いに不動岡の名を全国に轟かせてくれた好成績であった。

今大会を含め日頃より陸上競技部後援会をはじめとしたPTA・後援会のお力添えに深く感謝するとともに、今後とも不動岡高校の部活動全体の発展のため、ご支援等賜りますよう重ねてよろしくお願いいたします。

顧問　小堀　泰代

新聞部　全国高文祭　五年連続参加

今、新聞部が元気です。今年も群馬県（前橋市）で開催された「全国高等学校総合文化祭（通称高文祭）」に参加してきました。この大会は文化部のインターハイと呼ばれて、全国の文化部で活躍している高校生たちが県を代表して参加し、それぞれの技術や表現力を披露しあい交流を深めるものです。本校新聞部は今回で、第二十八回徳島大会以来五年連続の参加となります。この大会への参加は、県内のコンクールとは別に、一年間に制作したすべての新聞を全国の「年間紙面審査」という審査会に応募して、そこで入賞した学校が参加することになります。今年は全国から百十三校・二百七十人の新聞部（新聞委員会）の生徒が集まりました。

五年連続の全国大会参加は、部員生徒たちにとっては「誇りと自信」として受け継がれてきました。またそれが程よいプレッシャーとなり、昨年よりもいい新聞を作ろうという原動力になっています。「頭で書くな、足で書け」を合言葉に取材を大切にして、学校を、地域を、そして遠方まで飛び回っています。これからも「不動岡の今」を報道し、記録していきたいと思います。今後も新聞部の活動への御理解と御協力をよろしくお願いします。

顧問　長島　巌

文芸部　全国高文祭に参加

第三十二回全国高等学校総合文化祭（群馬大会）文芸部門に、文芸部三年平井俊君が参加した。平井君は、昨年、埼玉県高校生文芸コンクール散文部門で最優秀賞を受賞。県の代表となった。受賞作は「きみが聴こえる」だった。

群馬大会では、全体交流会、文学散歩、部門別交流会・分科会、記念講演会が三日間の日程で行われた。全体会では参加者から募った読み札によって作られた文学カルタが紹介された。埼玉県出身の詩人をよんだ「さめざめと故郷を歌う岡本潤」という平井君の作品も読み札になっている。分科会は、参加者が班に分かれ、合評、班別の報告、全体での合評、講師の先生の講評という流れで行われた。平君は、「いつか、ごみのように美しい世界で」という作品を出品。丁寧で美しい描写は、班内でも高い評価を得ていた。また、講師の中沢けい先生からも「内容にひかれる。高校生でないと書けないテーマだ。」とのお言葉をいただいた。この合評会では生徒たちの作品への思いを感じることができた。書くことを大切にする一人ひとりの思いが伝わってきた。

分科会後、私たちは帰路についたが、とても刺激的な大会であった。ここでは、若い高校生達が言葉と格闘し、こだわり、向き合っていた。そして柔らかな心、斬新な目で言葉を紡いでいた。「不動岡高校の生徒としてここに参加できたことがうれしかった。」との平井君の言葉が印象的である。不動岡高校の校章にはペンがかたどられている。書くことの伝統をこれからも大事にしていきたい。

文芸部顧問　小秋元美弥子